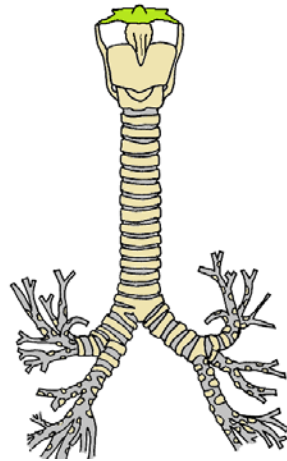
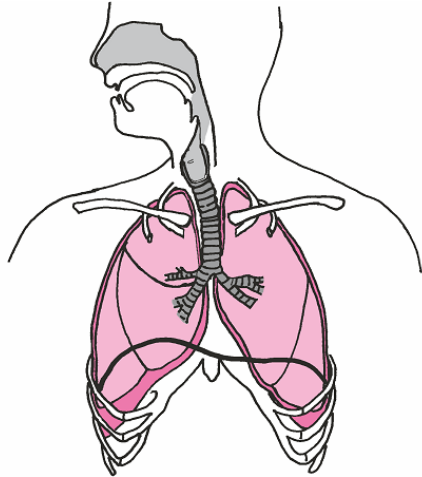
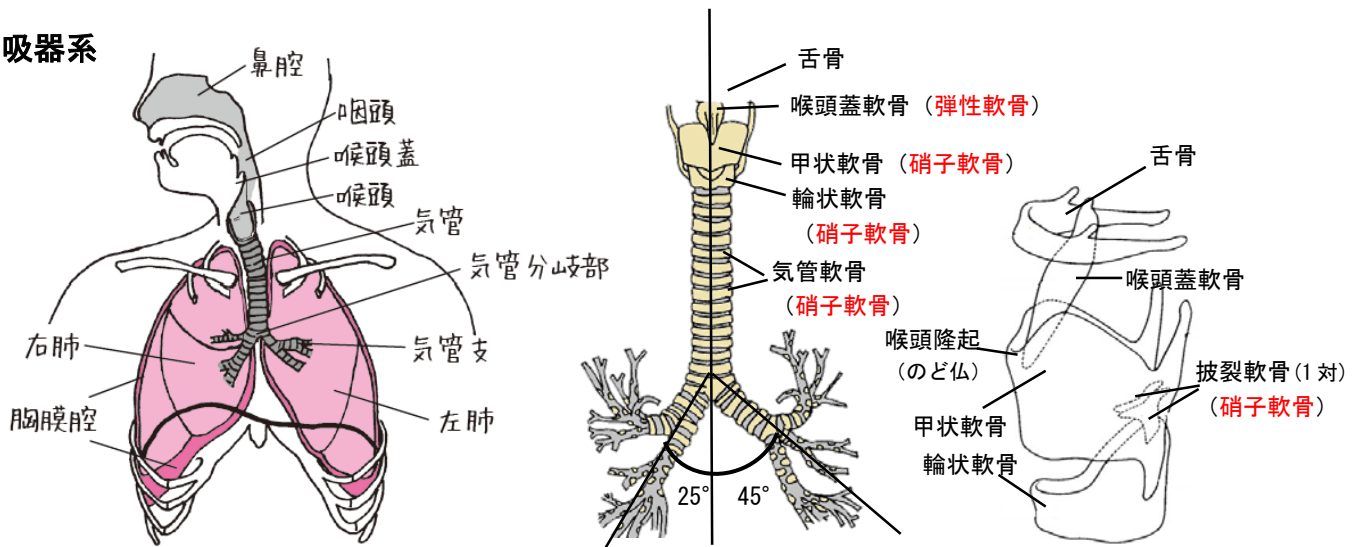


呼吸器系



- 呼吸器系は、空気が入り出す（ ）と、ガス交換が行われる（ ）からなる。
- 気道は、（ ）～（ ）までの上気道と、（ ）～（ ）までの下気道に分けられる。
- 気管支は、左右の（ ）気管支、右2本、左3本の（ ）気管支、（ ）気管支、気管支枝、小葉間細気管支、（ ）気管支に分かれる。
- 終末細気管支から末梢の（ ）、（ ）、（ ）ではガス交換が行われる。
- 喉頭の入口は（ ）、気管の入口は（ ）の高さに位置する。
- 肺の上端を（ ）といい、（ ）より約2 cm上方に位置している。
- 肺の下面を（ ）といい、（ ）に接する。
- 左右の肺の間隙を（ ）といい、ここには（ ）、（ ）、（ ）、胸大動脈などがある。
- 心臓は気管より（ ）で、やや（ ）に位置し左肺の容量が右肺に比べて（ ）い。
- 右肺は（ ）裂と（ ）裂により3葉に、左肺は（ ）裂により2葉に分かれる。
- 右肺の重さは約（ ）g、容量は約（ ）mlで、左肺の重さは約（ ）g、容量は約（ ）mlである。
- 気管支や肺動静脈、気管支動静脈、リンパ管などが入り出す（ ）部以外は胸膜に覆われる。
- 胸膜は（ ）胸膜（臓側胸膜）と胸郭の内側の（ ）胸膜の二重の漿膜で構成され、中に少量の漿液を含むことにより、肺の伸縮に伴う（ ）を軽減している。
- 喉頭は約（ ）cmの管状で、（ ）の高さに位置する。
- 喉頭は気道であるとともに、（ ）を持ち発声器としての機能を持つ。
- 輪状甲状筋は（ ）神経の枝の上喉頭神経支配で、それ以外の喉頭筋は迷走神経の枝の（ ）神経（下喉頭神経）によって支配され、麻痺すると（ ）や（ ）となる。
- 嚥下時は喉頭の（ ）によって（ ）が下がり、喉頭口を閉鎖し一瞬呼吸を止める。
- 気管は（ ）の高さで左右の気管支に分かれる。
- 気管分岐角度は右が約（ ）°、左が約（ ）°である。
- 右主気管支は左に比べ（ ）（ ）、傾斜が急である。
- 気管の内表面を覆う粘膜上皮は（ ）上皮からなり、粘液を分泌する杯細胞を含む。
- 気管（気管支）軟骨は硝子軟骨で、気管の前面から側面にかけて（ ）形に存在し、気管がつぶれるのを防ぐ。

呼吸器系



- 呼吸器系は、空気が入り出る（ **気道** ）と、ガス交換が行われる（ **肺** ）からなる。
- 気道は、（ **鼻腔** ）～（ **咽頭** ）までの上気道と、（ **気管（喉頭）** ）～（ **終末細気管支** ）までの下気道に分けられる。
- 気管支は、左右の（ **主** ）気管支、右2本、左3本の（ **葉** ）気管支、（ **区域** ）気管支、気管支枝、小葉間細気管支、（ **終末細** ）気管支に分かれる。
- 終末細気管支から末梢の（ **呼吸細気管支** ）、（ **肺胞管** ）、（ **肺胞** ）ではガス交換が行われる。
- 喉頭の入口は（ **C4** ）、気管の入口は（ **C6** ）の高さに位置する。
- 肺の上端を（ **肺尖** ）といい、（ **鎖骨** ）より約2 cm上方に位置している。
- 肺の下面を（ **肺底** ）といい、（ **横隔膜** ）に接する。
- 左右の肺の間隙を（ **縦隔** ）といい、ここには（ **食道** ）、（ **心臓** ）、（ **胸管** ）、胸大動脈などがある。
- 心臓は気管より（ **前面** ）で、やや（ **左側** ）に位置し左肺の容量が右肺に比べて（ **小さ** ）い。
- 右肺は（ **水平** ）裂と（ **斜** ）裂により3葉に、左肺は（ **斜** ）裂により2葉に分かれる。
- 右肺の重さは約（ **600** ）g、容量は約（ **1,200** ）mlで、左肺の重さは約（ **500** ）g、容量は約（ **1,000** ）mlである。
- 気管支や肺動静脈、気管支動静脈、リンパ管などが入り出る（ **肺門** ）部以外は胸膜に覆われる。
- 胸膜は（ **肺** ）胸膜（臓側胸膜）と胸郭の内側の（ **壁側** ）胸膜の二重の漿膜で構成され、中に少量の漿液を含むことにより、肺の伸縮に伴う（ **摩擦** ）を軽減している。
- 喉頭は約（ **5** ）cmの管状で、（ **C4～C6** ）の高さに位置する。
- 喉頭は気道であるとともに、（ **声帯** ）を持ち発声器としての機能を持つ。
- 輪状甲状筋は（ **迷走** ）神経の枝の上喉頭神経支配で、それ以外の喉頭筋は迷走神経の枝の（ **反回** ）神経（下喉頭神経）によって支配され、麻痺すると（ **失声** ）や（ **嚔声** ）となる。
- 嚔下時は喉頭の（ **挙上** ）によって（ **喉頭蓋** ）が下がり、喉頭口を閉鎖し一瞬呼吸を止める。
- 気管は（ **T4.5** ）の高さで左右の気管支に分かれる。
- 気管分岐角度は右が約（ **25** ）°、左が約（ **45** ）°である。
- 右主気管支は左に比べ（ **太く** ）（ **短く** ）、傾斜が急である。
- 気管の内表面を覆う粘膜上皮は（ **多裂円柱** ）上皮からなり、粘液を分泌する杯細胞を含む。
- 気管（気管支）軟骨は硝子軟骨で、気管の前面から側面にかけて（ **馬蹄** ）形に存在し、気管がつぶれるのを防ぐ。